



「全建総連65年史」の発刊にあたって

中央執行委員長 鈴木 貴雄

結成65周年を迎え、このたび「全建総連65年史」を発刊することとなりました。今日までの建設労働運動に心血を注がれた諸先輩方、関係者の皆さん、そして今の全建総連を支えていただいている全ての組合員・家族の皆さんの情熱とご尽力に対し、改めて心より敬意と感謝を申し上げます。

私たちの全建総連は1960年11月24日、全国7万3080人の建設労働者・職人によって結成されました。それから65年の歴史を積み重ね、今では60万人の大きな組織へと発展することができました。これは協定賃金や公契約法制定に向けた運動、日雇健康保険の擬制適用廃止に伴う建設国保組合の設立から育成・強化の取り組み、地域を基礎に据えた住宅デー運動、建設キャリアアップシステムの普及促進、アスベスト対策、大衆増税反対、全木協による応急仮設木造住宅建設の取り組みや技能者の育成など、一つひとつの運動の積み重ねによって成し遂げられたものであり、それが一昨年の「建設労働者の雇用改善、担い手確保・育成に関する100万人国会請願署名」の成功と国会における請願採択といった歴史的な成果から、新担い手3法の改正へと繋がってきました。

結成時に制定された綱領にある「全国の建設労働者、職人の団結によって、自らの労働条件を維持改善し、社会的地位の向上をはかる」とする決意を今一度確認し、これまでの無数の先輩たちが多くの困難を乗り越え奮闘してきた歴史に学び、これからの新しい時代を切り拓いていきたいと思えます。この65年史がこれからの運動の飛躍に向けた一助となることを期待し、発刊にあたってのあいさつとします。